

## 令和 3 (2021) 年度事業評価について (2021 年 4 月から 2022 年 3 月)

1. 令和 3 (2021) 年度の外部評価員による事業評価は、次の通りであった。

(1) 外部評価員 5 名 (敬称略)

伊藤 制子	東邦音楽大学・大学院講師
小川 智紀	(特非) S T スポット横浜 理事長 (※)
桂 真菜	ジャーナリスト、舞踊・演劇評論家
菊地 麻維	アーツカウンシル東京 シニア・プログラムオフィサー
吉本 光宏	ニッセイ基礎研究所 社会研究部 研究理事

(※)小川氏は、令和 4 (2022) 年 3 月就任。令和 3 年度の外部評価においては、年度評価について専門的観点からの評価・助言を受けた。

(2) 評価方法

- 主催事業を外部評価員が実地見学を実施し、事業評価シート (個票) に個別事業の評価を記述。
- 年度を通した総合的な評価として、個別事業評価等を参考に事業評価シート (総合) に評価を記述。その書面評価に加えて、外部評価員と職員とが出席する「事業評価会議」を開催し、意見交換や議論の上、当該年度の事業評価を総括する。

(3) 評価結果 (概略)

○個別事業評価数 (カッコ内は、令和 2 年度)

県民ホール	6 事業 13 シート (6 事業 9 シート)
芸術劇場	11 事業 22 シート (11 事業 28 シート)
音楽堂	5 事業 8 シート (4 事業 6 シート)
計 (延べ)	22 事業 43 シート (21 事業 43 シート)

○事業評価会議

令和4(2022)年9月15日(木)

出席評価員 5名出席

出席財団職員 専務理事、事務局長、事務局次長、県民ホール館長兼芸術劇場館長、音楽堂館長兼音楽事業部長、県民ホール副館長、芸術劇場副館長兼事業部長、担当職員(オンライン出席)、事務局

※新型コロナウイルス感染症予防対策として、オンラインを併用して開催した。

(4) 評価結果(外部評価概要)

1. 芸術文化事業

県民ホール	個別の目標や施策	一柳慧芸術総監督及び沼野雄司芸術参与のディレクションのもと、大ホールの2,400席の大空間と舞台機構を生かしたオペラ・バレエ・オーケストラ演奏会、発信力の高い企画による小ホールの活性化、現代美術や幅広い参加型企画によるギャラリーの活用などを通じて、県民ホールの価値を高める事業を行う。同時に、新型コロナウイルス感染症の世界的な拡大に対応するため、観客・出演者等の安全・安心を確保した事業を行うとともに、コロナ後の芸術文化のあり方を芸術総監督及び芸術参与とともに考えていくほか、新任のオルガンアドバイザーなどアーティストによる企画への参画(アソシエイト)も進めていく。
<p>○C×(シーバイ)シリーズなどの、新しく始動した小ホールの企画が好調で、独創性の高い事業が多かったことは高く評価できる。特にC×Cではクラシックと現代音楽の組み合わせでも集客できることが実感できた点もよかった。今後は大ホールの大型空間でも、ミッションを意識した事業が実施されることを期待したい。</p> <p>○ギャラリー企画展は、ギャラリーと演奏会来場者とを結びつける試みがなされており、高く評価できる。ギャラリーの存在をより幅広い層に知ってもらうことが大事だと思われる。内容に関しては、十分に見応えがあったものの、施設的な制約から完全に伝わり切れていない部分もあったが、さらに多くの人が作品を楽しめる工夫を求めたい。</p> <p>○事業の柱のひとつとして県域巡回オペラを実施し、受け入れ先からも歓迎されたことは高く評価できる。芸術文化に触れる機会は都心部を離れるだけ減る傾向にあるため、このような事業は県立の音楽ホールが担うべき重要な役割のひとつと考える。今後も受け入れ先との連携を密にし、各地域のニーズや特性も取り入れた事業が実施されていくことが期待される。</p> <p><b>【コロナ対策について】</b></p> <p>○コロナ禍での幅広い感染対策は評価したい。今後は通常期に戻していく努力も必要ではないか。感染対策の緩和やマスク着用のあり方の検討など、クラシック業界をリードする形で進めてほしい。</p> <p>○「C×」シリーズにおいてインターネットを活用した広告展開が積極的に行われていたことが認められる。コロナ禍を経てインターネットでの相互コミュニケーションが急速に発達した現在、異業種も参考しながら時代に即した広報宣伝を進めるとよいのではないかと。</p>		

<p>芸術劇場</p>	<p>個別の目標や施策</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・令和3年度より新たな芸術監督として迎える劇作家・演出家・俳優の長塚圭史氏のもと、年間を通じたプログラムや、芸術監督演出作品・企画作品を通じて、高い芸術性を担保し、リソースを積極的に育成・展開・活用する企画を立て、安定した事業運営を目指す。</li> <li>・劇場・財団のミッションを踏まえた多様なプログラムを提供する枠組みとして、シーズン制を導入し、「プレシーズン」「メインシーズン」として2つに分ける。</li> <li>・「メインシーズン」には、毎年度テーマを掲げ、時代や劇場の動性を表現し、そのテーマから想起される作品をラインアップする。令和3年度のテーマは、『冒』。『冒』は、「冒険」であり「冒流」。冒流未知なる世界へ足を踏み入れる勇気と、既成の概念を打ち壊す芸術の原点。シーズンを通じて、様々な『冒』によって、演劇の多様性を県民に提供していく。</li> </ul>
		<p>○長塚芸術監督の就任で非常に活気がでており、すぐれた事業展開がなされていると評価できる。また、前年度にパンデミックで中止されたプログラムを実施できたことも、芸術監督の交代がスムーズに行われたという印象に結びつき、芸術劇場の評価を高める成果に繋がったのではないかと。「劇場をひらく」というコンセプトも順調に行われていた。</p> <p>○シーズン制やテーマを設けて発信することは、劇場の目指す方向性が可視化できるようになり、作品鑑賞により深みが生まれ劇場への親しみもわきやすくなると考えられる。今後も芸術劇場が目指していることを県民や鑑賞者と共有し、劇場自体のファンの増加に繋げていくことを期待したい。</p> <p>○「虹む街」では県内在住の外国人を俳優に加え、横浜の環境を取り込んだ装置と物語が、地元の人を惹きつけた。中スタジオの稽古を公開して見学者のメッセージを集めるなど、観客を創出する試みも「劇場をひらく」方針に呼応していると評価できる。</p> <p>○KAAT カナガワ・ツアー・プロジェクト「冒険者たち ～JOURNEY TO THE WEST～」は「劇場をひらく」という目標に適っており、また台本に地域性を取り入れる等地方公演ならではの工夫も凝らされ大変評価できる事業であった。今後も質の高い演劇公演を県内各地で実施していくことが期待される。</p> <p>○開かれた劇場をさらに進めるために、地域の中での劇場の存在感を高めることが求められる。中華街との連携がなされ、公演チケット持参だと割引などはよいアイデアであり、今後も続けてほしい。</p> <p><b>【コロナ対策について】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・コロナ禍でのツアー公演等の実施は大変な苦労があると思われるが、陽性者発生による公演中止等を最小限に食い止め、今後を乗り切ってほしい。</li> </ul>
<p>音楽堂</p>	<p>個別の目標や施策</p>	<p>開館 65 周年、リニューアルオープンを機に開始した音楽堂のプレゼンスを再び高める事業を本格始動させる。一流室内楽ホールとしてのブランドイメージを構築する、質が高くオリジナリティにあふれたクラシック音楽を主としたレギュラーラインナップを主共催連動して展開すると同時に、若い世代、社会に向け、新しいジャンルの音楽や他ジャンルの芸術とのコラボレーションも含めた発信を行う。</p>

	<p>○コロナ禍にありながら海外招聘を実現させたことは高く評価できる。公演も、オペラ「シャルリー〜茶色の朝」やアンサンブル・アンテルコンタンポランなど、観客にも各方面からも高い評価を得ていたと思われる。また音楽堂周辺の紅葉ヶ丘周辺の地図などが公演時に配られるなどの配慮があり、地域の中での音楽堂のブランドや位置を改めて認識できたことがよかった。</p> <p>○新企画「子どもと大人の音楽堂（大人編） 音楽堂のピクニック」は、幅広い世代が楽しめたと考えられる。民族芸能、即興、ピアノ演奏など質の高いプログラムが、空間を十全にいかしつつ展開されていた。こういった企画に、若手アーティストへ参画のチャンスを与える等の検討をすることもよいのではないか。</p> <p>○ブランドイメージ構築のために、主催だけに頼らず共催公演を多く取り入れていることは効果的である。今後はホールの音響特性等と関連付けたプログラミングで音楽堂の個性を打ち出せれば、他館と更に差別化ができるようになり、ブランドイメージも定着していくのではないか。</p> <p>○新規事業「新しい視点 紅葉坂プロジェクト vol.1（ワーク・イン・プログレス）」では、一つの事業において出演者の選定方法、次世代の育成、モニター観客の導入、インターンによる広報等、異なる新たな取り組みが盛り込まれていたことは特筆すべき点である。次年度以降は今回の経験と反省を生かし、より出演者にコミットし深みのある事業へと進化することを期待したい。</p> <p><b>【コロナ対策について】</b></p> <p>○コロナ対策についてはかなり念入りに行われ、公演成功に導くことができたとは評価できるが、今後は海外の緩和事例も見習い、現状に合わせて柔軟に対応していくことも求められるのではないか。一方で、混雑緩和のため開場時間を少し早める等の取組みは、トイレの混雑分散化等、利便性向上の点からも検討していけるとよいのではないか。</p>
--	---

## 2. 施設維持管理運営事業

県民ホール	個別の目標や施策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・首都圏有数の客席数を持つ大型文化施設として、どのような催しにも対応できるよう、また、年齢や障がいなどにかかわらず、あらゆる人が芸術文化に親しめ、県民自らが様々な芸術文化活動に携われる、魅力的で快適な場となるような、安定したサービスと技術的サポートを提供する。</li> <li>・自主事業と貸館事業の適切なバランスを図り、新型コロナウイルス感染症の感染拡大前の稼働率と利用料収入の確保を目指す。</li> <li>・神奈川県内文化施設の「施設利用担当者」を対象とする、専門性の高い人材育成講座を実施し、県内文化施設全体のレベルアップ、県民利用のサービス向上に寄与する。</li> <li>・県と連携をとりながら、老朽化した施設の適切な維持管理を行うとともに、バリアフリー化、ユニバーサルデザインの採用等、県民サービスの観点から時代に即した施設整備を行っていく。</li> </ul>
-------	----------	---

	<p>○ホール内のトイレは点検がゆきとどいており、今後も維持に努めてもらいたい。施設老朽化はやむを得ないことであるが、細かい維持管理につとめ、利用者に安心して使ってもらえるような取り組みがより一層求められるのではないかと。</p> <p>○コロナ禍で健康と安全が強く意識されるなか、大ホール、小ホールともに階段の視認性を上げる取り組みによって、利用者サービスの向上につながったことは評価できる。高齢化が進む社会の劇場において事故防止は不可欠であり、ハード面だけでなく、ソフト面でも対応できる環境を整えることが望まれる。</p> <p>○「劇場運営マネージメントプロフェッショナル人材養成講座」は、県内文化施設の中核的存在である県民ホールが実施すべき価値のある事業であり、県内他館のスタッフと横の繋がりが構築できる点も意義深い。今後もこのような活動や他館との連携等を県民ホールが中心となって積極的に実施していくことが期待される。</p> <p><b>【コロナ対策について】</b></p> <p>○新型コロナウイルスの影響を大きく受け、都度政府や県の動向で対応に追われながらも、ガイドラインの見直し等により、安全の確保と利用者のニーズに寄り添ってきたことは評価できる。</p> <p>○空調設備の課題については、ウィズコロナの観点だけでなく、施設設備として利用者および来場者双方が気にする部分である。設置者と連携しながらプライオリティを上げて対処できるとよいのではないかと。</p>
<p>芸術劇場</p>	<p>個別の目標や施策</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・開館から 10 年がたち、ミュージカルのロングラン公演の会場として、多彩な演劇公演の上演される劇場として横浜に定着してきた。認知度の向上とともに比較的長期の利用が安定的に入るようになっており、引き続き専門劇場として運営・技術サービスを安定的に提供していく。</li> <li>・会場案内、舞台技術、警備等の各委託会社による施設を熟知したサービスをベースに、館全体で、快適な劇場空間の維持と利用者サービスの向上に努める。</li> <li>・外国人・障がい者等の来館者対応として、鑑賞サポートの充実、ホームページの改修、職員研修などを順次計画的にハードとソフトの両面から進めていく。</li> </ul> <p>○稼働率も好調のようで、劇場が順調に運営されていることが実感できた。良質な主催事業と貸館の実施によって着実に劇場のブランドイメージを構築してきたからこそ、公益目的事業での稼働率を高く維持できているものと高く評価できる。</p> <p>○コロナ禍の影響を受ける中で、長期利用の新規貸館団体の誘致に成功したことは、単なる収入増だけでなく県民に豊かな演目を提供することに寄与したものと評価できる。</p> <p>○アトリウムで行われたフレンドシップ・プログラム（社会連携ポータル部門との連携企画）は、施設の開かれた空間であるアトリウムでの入場無料の企画として、ファンが定着する可能性を感じさせた。今後、企画の周知にもより一層力を入れてほしい。</p> <p>○稼働率の高い専門劇場のバックステージツアー（同じく社会連携ポータル部門との連携企画）は価値の高いものである。「ひらかれた劇場」への取り組みとして公演以外の企画が定期的実施できていることは、企画担当と施設管理側の連携がうまく取れて</p>

	<p>いることの証明である。</p> <p>○10年を経過すると施設は予防保全に注力していくべきものである。今後はより点検と修繕のための休館を入念に計画し、シーズンラインナップの安定的な提供と収入確保に努めてほしい。</p> <p><b>【コロナ対策について】</b></p> <p>○今後はウィズコロナの時期であり、客席との対話等、演出上で必要な場合の声出しの緩和等を検討してもよいのではないかと。来場した印象では、自由な会話を望んでいる人も一定数いるように見受けられた。これからの感染対策について再考が求められる。</p> <p>○コロナの影響を抑えられたのは、抗菌コートなどで目に見えないところにも気をつける劇場の取組みの成果と評価できる。</p>		
音楽堂	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 30%; padding: 5px;">個別の目標や施策</td> <td style="padding: 5px;"> <ul style="list-style-type: none"> <li>・前川建築見学ツアーが改修により建物の価値が向上したことにより人気度を上げていること等から、建築としての価値とコンサートホール（音楽）としての価値をさらに向上させていくことを基本方針とし、安全・安心な施設維持管理、魅力ある事業実施や人材育成に取り組む。</li> <li>・利用者が安心感を持って利用できるよう親切丁寧な対応、休館日が祝日に当たる場合の臨時開館や、早朝利用等の弾力的な対応を行い、利用者・来館者の満足度向上を図る。</li> <li>・事故や危険の未然防止を徹底させ、県有財産の価値保全のための適切な管理に取り組む。</li> <li>・紅葉ヶ丘地区の活性化のため、県立図書館、青少年センター、横浜能楽堂、横浜市民ギャラリーとの5館連携事業「まいらん」を促進させる。</li> </ul> </td> </tr> </table> <p>○県立図書館と音楽堂が「神奈川県重要指定文化財」に指定された事により、地域のブランド力が高まった。令和3年度は年度当初からそれを想定した目標を掲げていたため、各事業や財団の広報物を通じて音楽堂の建築的価値を県内外にアピールできていたと評価できる。引き続き建物の魅力を工夫して広報することを続けてほしい。</p> <p>○紅葉ヶ丘まいらんと呼ばれる5館の文化施設の連携が、一層盛んになって周囲の住民の期待を集めていると考えられる。音楽堂の「子どもと大人の音楽堂（子ども編）みんなー！ たのしい音楽始めるよ、あつつまれー！」では、開放感とワクワク感で盛り上げられ、2日後には、横浜能楽堂の「こども狂言堂」が催され、子どもたちは古典に流れる笑いに浸った。まいらんエリアに行けば柔軟な感受性が養われる、といった良いイメージが発信される連携となった。</p> <p>○コロナの影響を大きく受けたとはいえ、利用率が高い水準まで至っていないため、次年度以降は、県民が芸術活動に利用できる「生きた文化財」であることをより推し進める必要があるのではないかと。</p> <p>○学校単位やアマチュアの利用者が多いこと、年齢層が高い傾向にあることを考えると、貸館でもシャトルバスを運用できる等、安心安全だけでなく、利便性も高めるようなプランが提示できるとよいのではないだろうか。</p>	個別の目標や施策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・前川建築見学ツアーが改修により建物の価値が向上したことにより人気度を上げていること等から、建築としての価値とコンサートホール（音楽）としての価値をさらに向上させていくことを基本方針とし、安全・安心な施設維持管理、魅力ある事業実施や人材育成に取り組む。</li> <li>・利用者が安心感を持って利用できるよう親切丁寧な対応、休館日が祝日に当たる場合の臨時開館や、早朝利用等の弾力的な対応を行い、利用者・来館者の満足度向上を図る。</li> <li>・事故や危険の未然防止を徹底させ、県有財産の価値保全のための適切な管理に取り組む。</li> <li>・紅葉ヶ丘地区の活性化のため、県立図書館、青少年センター、横浜能楽堂、横浜市民ギャラリーとの5館連携事業「まいらん」を促進させる。</li> </ul>
個別の目標や施策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・前川建築見学ツアーが改修により建物の価値が向上したことにより人気度を上げていること等から、建築としての価値とコンサートホール（音楽）としての価値をさらに向上させていくことを基本方針とし、安全・安心な施設維持管理、魅力ある事業実施や人材育成に取り組む。</li> <li>・利用者が安心感を持って利用できるよう親切丁寧な対応、休館日が祝日に当たる場合の臨時開館や、早朝利用等の弾力的な対応を行い、利用者・来館者の満足度向上を図る。</li> <li>・事故や危険の未然防止を徹底させ、県有財産の価値保全のための適切な管理に取り組む。</li> <li>・紅葉ヶ丘地区の活性化のため、県立図書館、青少年センター、横浜能楽堂、横浜市民ギャラリーとの5館連携事業「まいらん」を促進させる。</li> </ul>		

	<p><b>【コロナ対策について】</b></p> <p>○ウィズコロナの時期になっており、厳しすぎるガイドラインはかえって敬遠される可能性もあり、これからの感染対策について、再考が求められる。</p>
--	---

### 3. 本部事業、その他事業

社会連携ポータル部門	個別の目標や施策	<p>これまで、各館で取り組んできた、①専門人材育成プログラム、②学校教育へのアプローチ（エデュケーションアプローチ）、③あらゆる人々が芸術文化に親しめることを目指すインクルーシブアプローチ、④地域との連携を強化する機能（県域ネットワークプログラム）について、これまで培ってきた知識や経験を社会連携ポータル部門に集約し、強化していく。</p>
		<p><b>①専門人材育成プログラム</b></p> <p>○舞台芸術・劇場運営分野の専門人材育成について、インターンや研修生の受入れは、手間がかかる分野ではあるが、社会連携ポータル部門が関与する意義は高いものであると考えられる。</p> <p>○教育機関との連携では、アートマネジメント人材を輩出している大学を基軸にした展開であり、今後の事業展開を考えた場合、実用的な企画であったと評価できる。</p> <p>○人材育成の範囲はたいへん広いため、現時点では全体像を見渡し、ターゲットを知るためのリサーチを深め、知見を得ることが重要ではないかと考えられる。</p> <p><b>②学校教育へのアプローチ</b></p> <p>○地域の学校での活動実績が豊富な音楽堂が中心となった取組で、地域は川崎、座間、厚木、横須賀、茅ヶ崎、寒川などにわたっている。プログラムも安定した内容が提供できている。</p> <p>○今後は、これらの学校での取り組みの位置づけをより明確にしたい。目的に向けて事業を大きく展開する段階にはまだ至らないものと見受けられるが、部活動の地域移行の問題や、困窮世帯の子どもの体験格差をめぐる議論など、社会的にも注目される課題が山積する領域でもある。意欲的な取り組みを継続してほしい。</p> <p><b>③あらゆる人々が芸術文化に親しめることを目指すインクルーシブアプローチ</b></p> <p>○視覚障がい者、聴覚障がい者に向けた取り組みや多言語対応、ウェブ媒体整備など、これからの文化施設の根幹にかかわる重要な事業を継続的に行ったものとして評価できる。</p> <p>○2022年5月には「障害者情報アクセシビリティ・コミュニケーション施策推進法」が成立するなど、インクルーシブな鑑賞機会の提供は、当たり前の社会的要請になりつつある。情報保障を導入した際の具体的な事例、特に失敗事例などの共有を、まずは職員間で進められるよう、知見の充実に努めてほしい。</p> <p><b>④地域との連携（県域ネットワーク）</b></p> <p>○緊急事態宣言、まん延防止等重点措置などコロナ禍の影響を受け、県内の各文化施設も大きな影響を受けた。その中であって、県内8か所の文化施設との連携が行われたことは大きな成果であると評価できる</p>

	<p>○地域のネットワークづくりは、県の施設を運営する財団として重要だが、その目的や戦略づくりは必ずしも明瞭ではない。社会状況によっても期待される像は変わるため、普段の関係スタッフのアンテナは重要であると考えられる。</p> <p>⑤その他</p> <p>○新たに開始された社会連携ポータル部門の活動は、現段階で明瞭な像を結んでいるわけではない。その一方で、将来の神奈川県のアート文化を見据えたときに、施設に直接的に紐づかない文化セクションの可能性は大きく開けている。国内各地のアーツカウンシル同様、社会連携ポータル部門のチームも試行錯誤を続けてほしい。</p> <p>○あらゆる人を迎えるインクルーシブシアターを目指す姿勢が、3館を結んでいる様子が感じられる。芸術劇場の舞台技術講座「舞台技術者がインクルーシブシアターを考える」をオンライン公開しているが、多様な人を受け入れる英知を含む講座が無料公開していることは評価できる。</p>		
芸術文化に関する情報の収集提供	<table border="1" data-bbox="280 752 1410 1055"> <tr> <td data-bbox="280 752 539 1055">個別の目標や施策</td> <td data-bbox="539 752 1410 1055"> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「神奈川アーツプレス」をリニューアルし、県内の公演・催物等の事前情報を収集提供する現行の内容から、県内で実施された芸術文化や文化施設の取組等に関する情報を専門的視点でレビューしていく情報誌へ一新する。(年2回発行)</li> <li>・公演・催物だけでなく、人材育成・インクルーシブ関連の取組の特集など様々な観点から、紙の冊子ならではの読み応えのある特集・レポート記事を掲載していく。</li> </ul> </td> </tr> </table> <p>○「神奈川芸術プレス」は、催物情報の提供に留まらず、読み物としても充実した冊子へとリニューアルされたことは評価できる。さまざまな人と共有できる媒体として、芸術文化をとりまく諸課題や社会連携ポータル的な要素を含め、双方向に機能する誌面づくりが今後も期待される。</p> <p>○紙媒体のみならず、関連事項に飛べる Web 版を備え、劇場に来にくい方も読める点は評価できる。</p> <p>○年2回の発行時期や発行回数の妥当性については、今後熟考してほしい。</p>	個別の目標や施策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「神奈川アーツプレス」をリニューアルし、県内の公演・催物等の事前情報を収集提供する現行の内容から、県内で実施された芸術文化や文化施設の取組等に関する情報を専門的視点でレビューしていく情報誌へ一新する。(年2回発行)</li> <li>・公演・催物だけでなく、人材育成・インクルーシブ関連の取組の特集など様々な観点から、紙の冊子ならではの読み応えのある特集・レポート記事を掲載していく。</li> </ul>
個別の目標や施策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「神奈川アーツプレス」をリニューアルし、県内の公演・催物等の事前情報を収集提供する現行の内容から、県内で実施された芸術文化や文化施設の取組等に関する情報を専門的視点でレビューしていく情報誌へ一新する。(年2回発行)</li> <li>・公演・催物だけでなく、人材育成・インクルーシブ関連の取組の特集など様々な観点から、紙の冊子ならではの読み応えのある特集・レポート記事を掲載していく。</li> </ul>		
チケットかながわ、かながわメンバーズの運営	<table border="1" data-bbox="280 1357 1410 1704"> <tr> <td data-bbox="280 1357 539 1704">個別の目標や施策</td> <td data-bbox="539 1357 1410 1704"> <ul style="list-style-type: none"> <li>・会費無料のインターネット会員制度を運営し、メールマガジンの発行による公演案内やチケット発売情報の提供、先行予約の実施などのサービスを行う</li> <li>・主催事業の票券管理やチケット販売、また、共催・提携・貸館公演のチケット販売受託を行うため、チケットセンター「チケットかながわ」を運営する。</li> <li>・チケットの団体販売について、各種団体等への斡旋販売、福利厚生会員組織向けのインターネットを活用した販売を継続する。</li> </ul> </td> </tr> </table> <p>○多忙なかメルマガジンを多数配信していることは一定の評価ができる。しかし複数の分野の情報が一度に多く掲載されている印象が強く、読み手側にとって必要な情報が埋もれてしまうことが懸念される。</p> <p>○カスタマーハラスメントは近年大きな問題になっており、今後コロナ対策緩和の際にも、強いご意見が出る可能性もあるので、そうした際の対応を協議しておくとのよいのではないかと。</p>	個別の目標や施策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・会費無料のインターネット会員制度を運営し、メールマガジンの発行による公演案内やチケット発売情報の提供、先行予約の実施などのサービスを行う</li> <li>・主催事業の票券管理やチケット販売、また、共催・提携・貸館公演のチケット販売受託を行うため、チケットセンター「チケットかながわ」を運営する。</li> <li>・チケットの団体販売について、各種団体等への斡旋販売、福利厚生会員組織向けのインターネットを活用した販売を継続する。</li> </ul>
個別の目標や施策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・会費無料のインターネット会員制度を運営し、メールマガジンの発行による公演案内やチケット発売情報の提供、先行予約の実施などのサービスを行う</li> <li>・主催事業の票券管理やチケット販売、また、共催・提携・貸館公演のチケット販売受託を行うため、チケットセンター「チケットかながわ」を運営する。</li> <li>・チケットの団体販売について、各種団体等への斡旋販売、福利厚生会員組織向けのインターネットを活用した販売を継続する。</li> </ul>		

	○今後、県内企業や教育機関に対する団体チケット販売の営業活動について、より積極的に行われることを期待したい。	
資金調達活動	個別の目標や施策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・資金調達活動として、文化庁等からの補助金・助成金の確保に積極的に努める。</li> <li>・賛助会員制度（寄付金）の新規会員獲得のため、法人、個人の方々に向け方策を実施する。</li> <li>・インターネットを活用した寄付の受け入れを推進し拡大を図る。</li> <li>・個別協賛金や、広告出稿等の幅広い支援を働きかける</li> </ul>
	<p>○近年はクラウドファンディングでの成果が芸術文化の分野でもあがっているので、そうしたものも活用しながら、資金調達にいかしていくとよいのではないか。来場できなかったチケットや中止公演のチケットを寄付してもらう取組みは、今後も継続できるとよい。</p> <p>○時限的な資金調達に限らず、アートに関わる事象を総合的・継続的に守り育てるシステムを築く必要があることについても留意していくとよい。</p> <p>○賛助会員制度の充実には、新規入会を募るために寄付がしやすい仕組み作りも大切だが、継続のために寄付者に対する満足度を上げることも重要ではないか。また、個人寄付の充実にもより一層取り組んでほしい。</p>	

全体
○事業評価のあり方について、財団による自己評価と外部評価員による評価の書面上のやりとりだけでなく、それを受けて財団職員と外部評価員の実際のコミュニケーションを充実させていくことが、事業評価として有効である。コミュニケーションの中で評価を形成していくことは、時間も手間もかかるので、どこまでやるかというところを含め、今後財団の中で検討を重ねてほしい。